

## 公立保育園の使命と地域社会での役割

～すべての人が子どもたちに関心をもち 共に子どもの健やかな成長を育む～

千葉県・柏市・豊四季乳児保育園長 池上 文子  
富勢保育園長 石田 恵美子

柏市公立保育園 23園 定員 2955名 現員 3065名

### 設置市概要

人口 417,857人(平29,1,1現在) 保育所数 23か所(公) 47か所(私)

### 1 はじめに

平成27年度から「子ども・子育て支援新制度」がスタートし、柏市でも、保育園のあり方が大きく変わった。そこで、「すべての子どもたちが心身ともに健全に育つための地域の子育て支援の拠点とし、次世代育成の中心的役割を果たす公立保育園の指標」として「柏市子ども子育て夢プラン」を作成した。

その中で、公立保育園の強みを生かした具体的実践を展開し、地域に根差した保育園づくりを行うことで、今回の委託研究のテーマでもある「公立保育園の使命と地域社会での役割」について柏市公立保育園園長会で研究に取り組んだ。

### 2 柏市の概要

柏市は、東京都心から30km圏内の千葉県の北西部に位置している。東に我孫子市、印西市、北に野田市、利根川を挟んで茨城県守谷市、取手市、西に松戸市、流山市、南に鎌ヶ谷市、白井市と隣接している。

人口は、昭和29年の市制施行当時、4万人余りだったが、平成17年3月に旧沼南町と合併し、平成20年には中核市となり、現在では417,857人となった。鉄道は都心から放射状に常磐線及びつくばエクスプレスが、南北には東武アーバンパークラインが通っていて活気あふれる町である。

### 3 柏市の保育園の歴史と概要

柏市の公立保育園は、平成17年の旧沼南町との合併により2園が加わり23園である。

一方、私立保育園は、平成元年には旧沼南町も含め4園だったが、人口増加や待機児童解消対策、子ども・子育て新制度のもとで毎年増え続け、認定子ども園を含めると47園となった。

### 4 研究方法

公立23園の園長が全国保育協議会が策定したアクションプランをもとに「柏市子ども子育て夢プラン」を作成し、5つのカテゴリーごとにグループになり、5ヵ年計画に基づいて研究を進めた。

その進捗状況は、毎月の園長会議で確認し合い、5グループのリーダーが委託研究チームを作り、具体的な成果がでるよう調整とまとめを行った。また、内容によっては副園長会にも協力を要請し、公立保育園の園長、副園長のチームとしてこの研究を進めた。

## 5 柏市子ども子育て夢プラン

すべての子どもの育ちとすべての子育て家庭を支援する社会の構築が必要だと考え、多くの人が子どもの最善の利益や子育て家庭への支援の必要性をさらに感じ、支援活動を生み出し、子育てを大切にする文化の創造を実現させなければならぬと考え、「柏市子ども子育て夢プラン」の目標を

**「みんなで支える子どもの笑顔、すべての人が子どもに関心を持ち、ともに子どもの健やかな成長を育む社会の実現」とした。**

〈ねらい〉 すべての子どもたちが心身共に健全に育つために地域の子育て支援の拠点として、次世代育成の中心的な役割を果たす公立保育園の指標とする。

プラン実現に向けた取り組み（枠組み）

このプランは、子どもの最善の利益を追求するという視点に立って、①子ども②家庭③多様な連携④子育ての文化⑤仕組みづくりという5つの枠組みの中で具体的な事業計画（アクションプラン）を策定し取り組んでいく。

### ☆地域に期待すること・行政、保育園の役割

【地域】市民が主体的に社会参加し、人間関係を作るためには、「きっかけづくり」が必要である。子育てで言えば「寄り添い」や「見守り」支援が基本となる。そんなコミュニティと一緒に考えていく。（地域づくり）

【行政】児童虐待など緊急かつ行政が特に介入しなければならない場合の支援、ひとり親家庭に対する支援等、子どもに関して特別な支援を必要とする場合の支援を行う。（見守り、保護）

【保育園】これまで進められてきた施策や整備されてきた資源を有効に活用しながら、家庭への支援をし、家庭の育児力、地域の育児力を育む環境づくりを進めていくためのさらなる取り組みを行う。（支援）

### ☆プラン1 子どもの育ちを保障する

子どもがもっている力を活かし、支援することを通して、子どもの発達を保障する。そのために、質の高い保育について研究を深めまたその保育を実践する人材の育成、研修の充実に取り組む。

◎自己評価の研究、活用

◎各種マニュアルの見直し

### ☆プラン2 子育て家庭を支援する

保育園は、地域の子育て家庭に対する育児支援に取り組む。

◎一時預かりの拡大

◎一日保育士事業の充実



親子で保育園体験をすることで子育ての参考にしてもらうことを目的として行っている。核家族が多くな中、育児の不安が少しでも和らいだり、子育てに自信をもてるような支援の拡大を検討。

### ☆プラン3 多様な連携と協働をすすめる

地域の人々や近隣の幼稚園、小学校と連携を深め、子育て支援団体と協働して、地域の子育て家庭を支援し、保育園が子育て支援の総合的な拠点となる。

### ◎他機関との連携の強化「エンジョイ子育て事業」

子育て支援のネットワークの中で保育園の役割を発揮するため、昨年度、市の「地域健康づくり課」が行っている、0歳児～1歳半程度のお子さんと保護者を対象とした事業「母と子の集い」に各公立保育園の副園長が出向いた。そして、簡単なアンケート調査から見てきたことを元に「エンジョイ子育て事業」として取り組んでいる。

新たに3つのエリアごとの子育てサロンとして取り組む。北部では看護師と一緒に身体測定やベビーマッサージを行う「ママのおしゃべりサロン」、中央部では栄養士と一緒に離乳食の作り方を学ぶ「教えて離乳食」、南部では0歳児クラスとの交流「みんなおいで一緒に遊ぼう」を行い、今後もさらに広めていく。



### ◎子育てサロンへの参加

社会福祉協議会が行っている「子育てサロン」は、保育士の絵本の読み聞かせやエプロンシアターなど「出前保育」のきっかけづくりになる。保育園から他機関に発信することにより、民生委員や自治会などに保育園を知ってもらう機会が増えた。

### ◎自治会、民生委員、老人会との交流

#### ☆プラン4 子育て文化を育む

地域の人々、企業等、社会全体で子育て支援に関心を持ち、老若男女が関わる子育て文化の掘り起こしを大切に、子育て文化を育む。

### ◎園庭開放

各保育園の園庭開放実施がよく分かるように、看板やのぼりを設置した。また、園庭開放を気軽に利用してもらうためにどこの公立保育園でも押せるスタンプカードを作った。

### ◎育児講座の充実

保育園の親子の参加が多かったが、今後はエリアごとで地域の親子を対象とし充実させていく。

### ◎地域子育て支援拠点事業

地域子育て支援拠点事業は当初、少子化傾向の対策として産前から3歳までの地域の子育て家庭を支援する目的で「子育てサロン」の他、育児相談、妊婦教室、サークル支援を定期的にクラス単位で行っていた。平成25年より機能別、基本事業内容が再編され、現状のニーズに対応してその後柏市もいつでもどこでも誰でも利用できる場所として子育て支援センターを行っている。

#### ☆プラン5 子育て子育てを支援する仕組みをつくる

子どもたちが豊かに育つ環境を、社会全体で支えていく仕組みについて研究を行い提言する。

## ◎柏市における保育園のあり方

今後待機児童数も減少し、人口増加も落ち着く頃に、現在 70 園ある柏市すべての保育園の中で、公立保育園がどういう役割を果たすべきなのかを、民営化や縮小も含めて今から考えておく必要がある。

### 6 まとめ

昨年から策定した「柏市子ども子育て夢プラン」を通して、公立保育園のあり方、専門性について研究する中で、いくつかの方向性が見えてきた。

#### ①民間園が増える中で、公立保育園のマンパワーを活かし、引き続き柏市全体での保育の質の向上に努める

。

公立と民間保育園の園長が7年前から年に数回会議の場を設け、意見交換を行っているが、歴史ある民間保育園は、地域の中の保育園という使命が定着している。一方、新しい保育園は、人材育成、人員確保が課題となっている。今後は、エリアごとに公立と民間の交流の機会を作って、合同研修や、保育参加等お互いのノウハウを共有し、柏市全体の保育の資質向上につながるよう引き続き連携していく。

保育園以外にも、幼稚園や認定子ども園、小学校との連携も図り、小学校への滑らかな接続につなげていく。

#### ②公的機関の一員という立場から、それぞれの強みを活かし、役割分担をしながら協働で子育て支援を進めていく。

保育園が「地域健康づくり課」と連携し、子育て中の保護者のニーズを知り、新たな取り組みを進める中で、地域ぐるみで子どもを育て、子育てを支える環境づくりを担っていく。

#### ③気になる子、配慮の必要な子どもの保育について、他機関との連携の中、保護者も含めて支援していく。

要支援家庭については、その家庭のお子さんが在園している保育園と、家庭児童相談室、児童相談所を通してケース会議を開き、支援体制を作ってきた経緯がある。今後も公立保育園として、他機関との連携を強化し、サポート体制を作っていく。また、医療的ケアを必要とするお子さんの入園についても、近い将来現実のものになった時に、公立としての役割を果たすという自負をもって対応する。

#### ④園長の責務として、職員の働きやすい職場づくりや、地域、他機関との連携強化を行う。

園長として、しっかりとしたビジョンを持ち、子どもの気持ちに寄り添うていねいな保育が実践できるよう、副園長や保育リーダーと連携し保育運営を図り様々なマネジメント力を持ち、チームを高めていく。

また、今年度地域へ園長が出向いたことで、地域との絆が深まり、地域の中の保育園としても認知されてきた。今後、異動等で園長が変わっていても、地域交流、発信は続けていく。

### 7 おわりに

柏市の親子が健やかに育つために、切れ目のない支援や連携体制を作り、安心した妊娠、出産、子育てにつながる支援を、医療、福祉、保育、教育機関や地域の関係機関と連携しながら進めていくことが、公立保育園の使命と役割だと再確認できた。これからも「柏市子ども子育て夢プラン」の更なる具現化に向け、園長会全体で実践していく。